

「こうか授業術」5箇条の各項目について、今年の4月に、全国の小学6年生と中学3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の中のアンケート結果を交えながら、紹介します。

今日の「めあて」はこれ!



子どもめあての共有

授業の始めに、子どもにその日のめあて(学習課題や目標)を提示していただきます。そうすることで、子どもは学習のゴールを意識しながら見通しを持って授業に臨むことができます。また、めあての板書とノートへの記述も習慣づけています。

全国のアンケート結果でも、「ノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」の質問に、本市は小中学校ともに「どちらかといえば」当てはまる」と答えた子どもが全国平均を上回っており、「めあての共有」はかなり定着してきました。

今日は、こんなこと学んだね!



うんと考えひとり学び(自力解決)

すでに習った事項(知識、技能、考え方等)をもとにして、自分の考え方を持つことで、子どもは「伝えたい」「確かめたい」という思いを持ち、主体的に学んでいくことができます。問題解決のための十分な時間を確保しつつ、つまづきを予想して、自力で解決できるよう支援を行います。



▲じっくり考えながら取り組む児童

こんな取り組みもしています

●漢字検定・英語検定の受検補助(両検定の補助は本市のみ)

●漢字検定料補助

市立小学校における漢字検定料の全額を小学4～6年生に補助します。

●英語検定料補助

市立中学校における英語検定料の全額を全中学生に補助します。

●第3子以降学校教育費の支援

18歳未満(基準日4月1日)の子どもの3人以上育てる保護者に対し、第3子以降の児童生徒の学用品費(通学用品費を含む)を補助します。

●金の卵プロジェクト

子どもたちが未来に向けた夢や目標を持つ機会として、一流のアーティストやアスリート、科学者などを迎えたイベントを実施するものです。

8月にはミュージカルで有名な「劇団四季」の俳優による「美しい日本語の話し方教室」を開催しました。1月以降もトップアスリートなどによるイベントを実施予定です。

かんがえつなげて話し合い

ペアやグループ学習等を含め、子どもが発言する時間を十分に確保します。より多くの意見を聞くことで、友だちの発言を自分と比べながら考えを確かめたり広げたりすることができます。そのことを通じて学ぶことの意義や自分の成長を実感することができるようになります。

ICT(※)で変わる授業

ICT教育環境を整備します

ICT授業のメリットは?

- ・教科書などでは理解しづらい内容も動画や音声を使ったり、写真や図を拡大したりすることで、授業がより分かりやすいものになります。
- ・タブレットは離れて操作できることから、教師が自在に場所を変え、一人ひとりに寄り添って授業を進めることができます。
- ・社会人になって必要なICT機器の操作を、早い段階から適切な指導のもと、学ぶことができます。



▲先生がタブレットや電子黒板を授業に活用



▲電子黒板に書き込む生徒

ICTを使った授業の感想を先生や生徒に聞いてみました

甲賀中学校 先生の声

- 発音練習では、画面に大きく単語などを映し出すことで、生徒がプリントや教科書を見るために下を向く必要がなく、全員が顔を上げて練習できるので、生徒の表情や口の動きを確かめながら授業を進めることができます。
- タブレットを使うと黒板の前を離れて画面を操作することができるので、一人ひとりの近くに行き、学習状況を確認しながら授業を進めることができました。

甲賀中学校 2年生の生徒たちの声

- 電子黒板に映る英文を読む練習では、単語の色が変わるので、「今、どの単語なのか?」が分かり、途中からでもついていけます。
- 先生が近くまで来てくれるので、分からないところや困っているところを質問しやすくなりました。



▲授業でタブレットを使う児童

このように未来を見据えた教育環境の整備と、5箇条を中心とした授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現させるため、平成29～平成31年の3年計画で、学校へのICT機器の導入を図ります。

今年度は、教員用タブレット、デジタル教科書および電子黒板を導入し、ICT機器に関する教員の活用能力の向上を図るとともに、分かりやすい授業の創造に取り組んでいます。

来年度からは、児童・生徒用タブレットの導入を図っていく予定です。

※ICT

インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。パソコンやタブレット、インターネットなどに関する情報通信技術のこと。